

平成21年度第1回山形県立博物館協議会 記録

日 時 平成21年9月4日(金) 13:30~15:30
場 所 山形県立博物館講堂

1 開 館

2 あいさつ

3 委員紹介

4 山形県立博物館協議会長・副会長の選出

「教育機関の組織及び運営に関する規則」第54条の規定に基づき、
会長に丸山委員、副会長に日野委員を選出する。

5 報 告

(1)平成21年度主要事業の進捗状況について

(事務局より説明)

協議事項とも関連するので、質疑は協議事項のなかで一括して行うこと
にした。

6 協議事項

(1)山形県立博物館の今後の運営について

①来館者の増加について

②資料のデータベース化及びホームページについて

〈質疑応答〉

○酒井委員

致道博物館では、文化庁の文化遺産オンラインに登録して活用している。山形県での利用は非常に少ないようだ。先ほど県立博物館でのホームページのリニューアルの話があったが、その前段階として文化遺産オンラインを活用したらよいのではないか。企画展の案内なども自由にできるし、セキュリティーの面でも国がやっているので安心だ。

○三浦委員

来館者数の説明の中で、講演会等の定員などがわからず、受講者が多いのか少ないのかが見えてこない。県内県外等の入館者の分析もあるとよい。

○事務局

本館では、文化遺産オンラインに「縄文ヴィーナス」を登録しているが、今後、さらなる活用を検討していきたい。

○安達委員

これまで何度も、県立博物館でのユニバーサルデザインの遅れを指摘してきたが、先ほどの説明にあったトイレの改修等、改善されることになったのは喜ばしいことだ。使いやすいものになるように願っている。

県立博物館のホームページを時折見るが、訪問者カウンターは、1万に満たないようだ。ホームページの表示や操作などもわかりにくい。今年度、予算がついてホームページが改善されるのはよいことだ。

7月に、知り合いの学校長から、県外からの客をどこに案内したらよいかという相談を受けた。「天地人」博ははずしたくないということもあり、また3ヵ所以上回るのは負担が大きく、県立博物館を紹介するのは無理だった。今年度の入館者数減はやむを得ない点もあるのではないか。

○日野副会長

特別展「山寺」は大きいテーマで、すばらしい内容だ。期間中の入館状況はどうか。

○事務局

本館のホームページの訪問者カウンターは、5月末からつけた。1月につき2,500余りの利用者数がある。現在は、無料のサーバーを使っているので、容量が少ないのが悩みだ。

特別展は8月上旬から始まったが、思っていたほどには客足が伸びていない。内容については、高い評価をいただいている。

○日野副会長

文翔館でも入館者数は少なくなっている。過去では最高17万人の入館者があったが、現在は13万人台になっている。昨年、文翔館では山形大学との共催で「五百沢智也」展を開催した。学術的にもすばらしく見た目にも面白い展示会でかなりの入館者数があった。山寺展で入館数が少ないのはそれにしても残念だ。

○事務局

山寺展だけの入館者統計はまだとっていないが、昨年度の世界遺産展なみの状況といえる。

○日野副会長

今年から、最上義光記念館などが無料化されて入館者数が倍増したというが、県立博物館への恩恵はないか。

○事務局

今のところは見られない。本館の窓から、観光バスで来た団体客の様子が見えるが、本館を素通りするのが目立つ。団体客は無料の所に行くようだ。

本館では、例年、特別展1、企画展3程度の展示会を開催してきたが、職員数も決して多くなく苦しい現状だ。

○丸山会長

「天地人」博の影響はかなり大きかった。入場者数なども「天地人」博単発ではなく、県全体での視点も必要なのではないか。

○小形委員

来館者の定義はどうなっているのか。講座等の受講者も来館者にカウントされているのか。展示会は県内関係のテーマしか扱わないのか。県外機関との連携などは考えていないのか。

○事務局

来館者数については、講座の受講者もカウントしている。

展示会のテーマ設定は、基本的に学芸員の裁量に任せており、山形の文化や自然をテーマとするのが中心となっている。仙台でおこなわれた「エジプト展」のような展示会は、事業予算確保から難しいが、来年度は、奈良国立博物館の「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」に関わる共同企画展を計画している。

○後藤委員

中学生の職場体験では、県立博物館にお世話になり感謝したい。

「天地人」関連で最上義光記念館も展示会を開催したように、展示会も何らかの関連性が大事だ。近くの山形城跡の発掘も進んでいる状況なので、出土品との関わりを持った展示会などは考えていないのか。

○事務局

話題としては出ているが、企画として現段階では考えていない。

○丸山会長

県内出土の考古資料が県外の機関にも多数収蔵されているが、オンラインでそうした資料を検索できるシステムはできないのか。

各事業について、学芸員による評価の文章などを情報公開する考えはないのか。

○事務局

データベースのリンクについては、自然系では国立科学博物館の例がある。人文系では、各機関での博物館情報の標準化は進んでおらず、データベースをつなぐのは難しいところがある。

事業評価については館全体として試行的に取り組んでいるところである。ひとつひとつの事業につき実施報告を求めており、各種のデータもそろえるように改善している。参加者のアンケートも重要な評価となるので実施するようにしている。そのいくつかについては、次回の協議会に提示したい。

○野口委員

ホームページの改善は、業者まかせにするよりもできる限り自館で行った方がよい。

入館案内の表示は、誰にでもわかりやすいように見直すべきだ。女性の視点からは、博物館の表現は硬いイメージがある。ブームになっている「ゆるキャラ」の活用なども考えた方がよい。

霞城公園の大手門近くには、ボランティアの人たちがいて観光客などを案内している。県立博物館にもボランティアがいるので、ボランティア相互の連携も必要ではないか。

来年1月から3月にかけて開催される県内の名品巡回展に期待したい。

○事務局

ホームページの改善については、職員からの意見とともに県民の要望も集めている。全国の事例なども調査しながら、利用者サイドに立った改善を図りたい。各種の申込なども電子決裁できるシステムを考えている。

案内表示については、設置器具などが必要となる場合があり、予算上厳しいところがあるが、改善を図っていきたい。

本館には、現在47名のボランティアが活躍している。約半分が他のボランティアを兼務しており、本館のことを機会があるたびに紹介してくれている。

○安達委員

霞城公園付近には一方通行などもあり、県立博物館への交通アクセスの案内は不十分だ。県外の人にとっては特にわかりにくい。

看板の制作などは、東北芸術工科大学の学生から協力を得るのもよいのではないか。

○事務局

先日、学芸員実務実習があり、最後に学生から本館に対してさまざまな提案などをしてもらった。その中で、我々にはない斬新な発想やアイデアも出され参考になった。

○三浦委員

芸工大の環境デザイン学科などでは、地域とのさまざまな連携事業を展開している。学生にとってもよい刺激となるので、こちらとしてもよろしく願いたい。

博物館の評価として入館者数だけではなく、ひとりの入館者の滞在時間も評価の指標となるのではないか。入館者数が少なくても、ひとりひとりが多くの時間を過ごせば大きな意味があるはずだ。同じ作品を見ても折々で心地よく過ごせる美術館や博物館がある。そうした観点も今後評価の対象に入れてほしい。

○野口委員

先ほど、トイレの改修の話があったが、障がい者用トイレは多目的トイレの方向で検討してもらいたい。

○事務局

多目的トイレを導入する予定である。

○丸山会長

ホームページの改善に関して、パブリックコメントを求めたということだが、具体的な要望はあったのか。たとえば、小中学校の先生方が積極的に要望などを書き込めるものなのか。

○原田委員

中学校の場合、先生方が博物館に対して何かを進んで要望するだけの余裕はないのが実情だ。

山寺展を見て、ぜひ山寺に行って本物に触れたいと思った。同じような人は多くいると思うが、交通アクセスの案内などのケアも必要なのではないか。

○事務局

県民からの要望を広く募集はしたが、具体的な意見はなかった。
山寺への案内については今後充実させたい。

○小形委員

社会科見学などの団体を増やせば来館者数も増加するはずだ。山形のことを短時間に学べる場所は他にはないので学校現場としても意識したい。

同僚の話聞いても文化財を見る機会は少なく、関心を引き起こすのは容易ではないと感じた。

親しみやすい博物館づくりが大事だ。「よねざわ昆虫館」の運営委員を務めているが、カブトムシの展示にあわせて、折り紙の兜づくりを行うなど、これまでになかった視点や発想からイベントを開いて成功している。

学校でもボランティアが入り、10年前とはかなり現場の様子が変化した。博物館でも様々な協力や支援が得られるはずだ。

博学連携がいわれるが、学校からのアプローチだけではなく、館側からのアプローチも必要ではないか。

○事務局

博物館ニュースを教育事務所経由で学校に配信するなど、館側からの情報発信には努めている。

山形アートライン事業でも学校との連携を重視しており、今後、作業部会で具体的な内容を詰めていきたい。

○安部委員

文化庁の予算で県内の名品巡回展が実現するという話があったが、各地区の開催場所はどうか。

○事務局

村山地区は本館と山形美術館、庄内地区は致道博物館と本間美術館、置賜地区は上杉博物館を会場に考えている。

○安部委員

年度末の忙しい時期であるがぜひ成功させてもらいたい。

(2) その他 (特になし)

7 その他 (特になし)

8 閉会